



ふく た けい いち  
**福田 慶一**

しみん  
**市民クラブ**

### 健康寿命を延ばすフレイル予防の取り組みは

**問** 超高齢化社会に向かう中で、高齢者も地域の支え手、担い手となる社会の在り方が問われている。その中で高齢者が社会参加の機会を増やしていくために、フレイル（虚弱）予防が重要である。そのための口腔ケア、筋力低下を防ぐ運動への取り組みはどうか。また、社会とのつながりを失うことがフレイルの入り口といわれるが、社会参加の取り組みについて伺う。

### さまざまな観点からのフレイル予防を推進

**答** 口腔ケアについては、歯科衛生士が高齢者の口の中の状況などを確認し、歯、歯茎および舌の清掃方法や口腔体操などを指導し、必要に応じ歯科受診を勧めている。

また、予防運動については、高齢者が自宅のできるストレッチと筋力運動として、健康状態に合わせて無理なく自宅のできる10種類の元気アップ運動などを紹介している。

社会参加については、健康づくり推進員292人の方々に、ウォーキングや体操などの健康づくり活動や地域行事などで近所の人への働きかけ、社会参加を進める役割を担ってもらうなどしている。

### ●その他の質疑・質問●

- 議案第43号平成31年度津市一般会計予算から
- 三重弁護士会とのスクールサポート連携協定事業について
- 市政に対する市長の考え方は
- これまでの実績と自己評価は
- 市政に対する基本的な考えは
- 職員の人事管理について
- 農業集落排水事業の対策
- ビジネスサポートセンターの開設後2年の取り組みは など



▲創業支援などをサポートするビジネスサポートセンター



た や しゅう すけ  
**田 矢 修 介**

けん と  
**県都クラブ**

### 市民の生命を守る救急医療体制の強化を

**問** いつでもどこでも誰でもが適切な救急医療を受けられる体制が求められている。地域包括ケアシステムの推進や、津市版「医師修学資金貸与制度」の創設も市民の生命を守る救急医療体制の強化につながると思う。患者の受入れ体制の観点から、救急車やドクターカーなどでの搬送ではなく、自家用車やタクシーなどで来院し、救急医療機関を直接受診する患者の状況は、

### 引き続き、救急医療体制の強化に取り組む

**答** 病院の時間外に、タクシー、徒歩等で直接、来院される患者、いわゆるウオークイン患者について、各二次救急輪番病院に確認したところ、専門外でない限り、基本的には全て受け入れているとの回答であった。

病院の時間外に急な体調不良等で診てもらえるのは確かに安心ではあるが、一方で、時間外、特に輪番日にウオークイン患者が増加してしまうと、救急医療を支えている医師やスタッフの疲弊にもつながりかねないため、市としても、かかりつけ医を持ち、また、津市応急診療所を受診していただくよう、引き続き、市民への啓発に努めながら、救急医療体制の強化に取り組む。

### ●その他の質疑・質問●

- 雨水対策の本格化、浸水被害軽減に向けた取り組みの要諦は
- 旧市民プール跡地へのテニスコート整備において利用者本位に基づき永年親しまれる施設を
- 教育委員会への信頼が全国的に問われているが、子どもを最後まで徹底して守り抜く責務をどのように受け止めているか
- 津市が「新たな時代」において、なすべきことは何か など



▲津市版の「医師修学資金貸与制度」を創設し医師の確保を